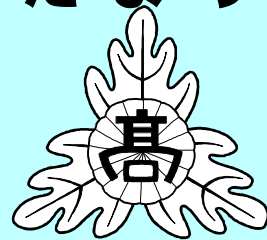


市来農芸 だより



第 163 号

平成 28 年 6 月 1 日
編集・発行
市来農芸高校広報係
いちき串木野市湊町 160
TEL (0996) 36-2341
発行責任者
校長 本村 信一

農業クラブ校内意見発表会

代表者は県大会へ

五月十日、農業クラブ校内意見発表会があり、県農業クラブ連盟各種発表大会「意見発表の部」に出場する三名を選出した。

発表会は、生徒全員が提出した意見文の中から各クラス二名ずつ選出し、合計十八名が発表する。入学して一ヶ月程の一年生も中学校までに体験してきたことを交えながら農業に関する意見を述べ、一・二・三年生は日頃の練習やこれまでの様々な活動で経験したこと、考えたことを熱く語った。発表内容や態度について、各科代表八名の先生方が審査員となり、点数をつけ、選考会にて各分野ごとの代表者三名を以下の通り選出した。この三名は、

六月十四日～十五日にかけて行われる県大会に出場する。そこで、県大会出場に向けての意気込みを聞いた。

☆分野Ⅰ類

「生産・流通・経営」

「『牛の島』をめざして

～私の四つの挑戦～」

和田涼暉 (和泊中出身)

○昨年も出場したが入賞できなかったため、今年が入賞目指してがんばります。

☆分野Ⅱ類

「開発・保全・創造」

「安全を贈る ～人にも環境にも優しい花を～」

増田理沙 (明和中出身)

○自分の意見をしっかりと伝えられるよう練習をがんばって大会に臨みたいです。

☆分野Ⅲ類

「ヒューマンサービス」

「『若者』を農業の地域資源に」

鮫島功丞 (鴨池中出身)

○昨年は県大会最優秀賞で九州大会に出場したが入賞できなかった。今年も最優秀賞を目指します。緊張しないです。堂々とした発表ができるようにがんばります。



今年度は、本校が九州学校農業クラブ連盟の事務局校となっており、八月、鹿児島大会がいちきアクアホールで開催される。県大会最優秀賞を勝ち取り、九州大会への出場を期待したい。

PTA総会開催

卒業生熊本地震

義援金募る

五月十三日、PTA総会が開かれ今年度の事業計画や予算等について審議・承認された。また、熊本県南阿蘇村で被災した本校卒業生の東海大生三名が訪れ、スクリーンに地震で倒壊した学生アパートや地割れした大学の駐車場等の写真を映し出しながら災害の様子を伝え義援金を募った。



東海大生の田中さん、上前田さん、藤崎さん (左から)

本校PTAも義援金を募り、総額六万九千九十円が集まった。この義援金は南阿蘇災害義援金と県PTA連合会義援金係に送金され

る。保護者の皆様方、ご協力ありがとうございました。

平成 28 年度 PTA 役員 (敬称略)

- 会長 吉永 一成
- 副会長 宮下 裕治
- 吉村 加代美
- 野田 清子
- 南 直哉
- 監事 濱門 礼子
- 日高 清美

春季地区大会

四月二十六日～二十七日にかけ、高体連の日置地区大会が行われた。県大会の前哨戦となるこの大会で、自分たちの力が確かめられただろう。主な結果は以下の通り。次回に期待したい。

☆卓球

個人シングルス

鮫島 (三年) 二位入賞

☆剣道

個人 堂崎・松山 (三年)

二回戦進出

☆男子バドミントン

個人ダブルス

宮脇・井上組 (三年)

二回戦進出

自転車安全利用モデル校指定

今年度、自転車(原付車)安全利用モデル校及び自転車盗難防止モデル校に指定され、四月二十五日、指定交付式が行われた。



農芸市場販売物

6 月 農芸市場開催日
7,14,21,28 日 (火曜日)
販売時間 ; 14:00~

販売予定品目

<野菜>

きゅうり、スナップエンドウ、ミニトマト、トウモロコシ(1本)、キャベツ...
小売り形状で 100 円

トマト...小売り形状で 200 円

<卵>

M サイズ...200 円

L サイズ...220 円

2L サイズ...230 円

<加工品>

豚味噌、ちりめん味噌...250 円

イチゴジャム、ポメロジャム...250 円

<花苗>

マリーゴールド、ダリア等...50 円

<鉢花>

ニューギニアインパチェンス

ペチュニア(6号鉢)...300 円



式ではモデル校の趣旨説明があり、いちき串木野警察署長より生徒代表に指定書の交付があった。代表の宮尾君が「自転車には防犯登録をし、駐輪するときは二重ロックをかけます」と宣言した。

歓迎!ななつ星

JR九州の観光列車「ななつ星」が三月から九月の間毎週木曜日に市来駅に停車しています。

本校生徒会では、四月に停車中のななつ星を市来駅のホームで歓迎しました。列車は鹿児島中央駅からおれんじ鉄道へ向かう運行三日目の乗客の皆さんを乗せ、五分間ほど停車しました。生徒たちはいちき串木野市の代表として、黒豚の衣装と農芸の法被を着て、近隣の住民の皆さんとともに温かく出迎えました。



職員コラム

「わたし」を感じる

家庭科 上田平美穂子

生後間もない赤ちゃんはどこからどこまでが自分の足なのか手なのか分かっていないそうです。そのうえば、一つの塊のようで、

思うように動かないといわれます。そういう状況の中で、自発的ではあるけれどもも統制できない動きを繰り返し、周りのものに触れる、時には勢い余ってぶつかると、又は他者から触れられる、その時の感覚によって、自分と周囲との境界を長い時間をかけて感じ取り、自身自身を知っていく。それと同時に、体の外に世界があることを感じとっていきまます。生後2、3ヶ月の赤ちゃんと小さな手を組んで顔の前にかざし、じつと見つめたり、しゃぶったりする行動は、自分には手(体)があつて自由に動かせることに気付いた瞬間であるといわれています。このように「わたし」の第一歩は、感覚の一つである「触覚」で、自分とは異なるものと触れ合い境界を感じることに始まりまます。高校生

6月の主な行事

- 3日(金) 重信川河川愛護活動
- 6日(月) 全校朝礼、服装容儀指導
- 10日(金) 第2回PTA三役会
- 13日(月) 全校朝礼、家庭クラブ総会
- 14日(火) ~15日(水) 農ク県各種発表大会
- 28日(火) ~1日(金) 期末考査



を介して触れあい、「わたしであること」「わたしでないこと(あなたであること)」を心で感じ、その違いを考え、知覚することを通して、自我を明確にしていきます。ところが、自分の感情にのまれると境界を感じられなくなつて、自分を見失うことにつながります。「わたし」を感じるために「あなた」がいてくれる。そう想えると自分に関わつてくださる方々に「ありがたい」という気持ちが生まれ、穏やかに「わたし」と「あなた」を感じる事ができそうです。